



2017年度 経営指針

Resolution 2017

～決断～

Japan Dodgeball Association

一般財団法人日本ドッジボール協会

We try to increase the number of **Dodgeball** players.

私たちは ドッジボールの競技人口※1の増大に 挑戦します

現状を把握し 問題に鋭く迫り 答えを導き出します

私たちは 前例にとらわれず 挑み続けます

※1 競技人口:協会所属のD-1チーム及びD-2, D-3, シニアカテゴリー登録選手, 未登録の大会参加者の合計

2017経営指針

Guideline for Administration

2016 “Spread”

- 安定(化)期4年の最終年
- 事業継続、財務安定化、普及事業、カテゴリー浸透
- 全国大会の開催県協会による主管制度、近隣の県協会による支援体制の確立
- 新カテゴリー導入の推進, 新規競技者獲得, 競技ドッジボールへの誘導
- 委員会業務の組織, 運営を抜本的に見直し, 組織全体の機動性を強化
若手有望人材の発掘, 世代交代を推進
- 大会組織の抜本的な見直し, 人員削減の断行
- 中長期的視野で指導者育成目標を立案

2017 “Resolution”

- 強化拡充期4年の初年
- 競技人口増大, 事業拡充

新規

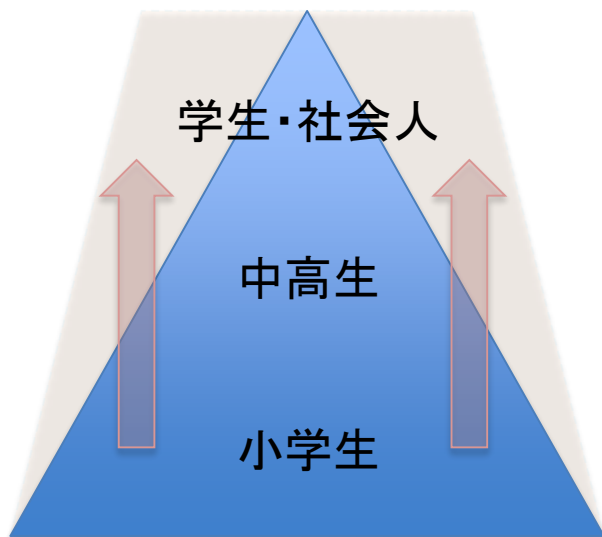
- 年代別選手強化プログラムの検討
- 年代別普及プログラムの検討
- 日体協公認指導者制度運用開始
- 上級審判員取得率向上に向けた取組

- 委員会業務の組織, 運営を抜本的に見直し, 組織全体の機動性を強化
若手有望人材の発掘, 世代交代を推進
- 大会組織の抜本的な見直し, 人員削減の断行
- 中長期的視野で指導者育成目標を立案

継続

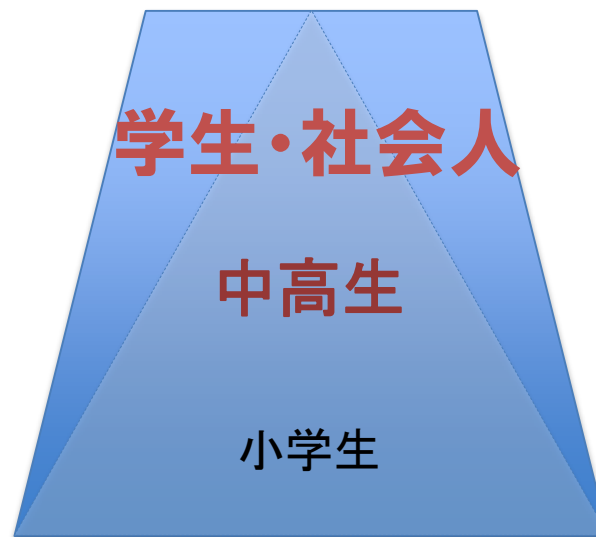
競技者構造の改革

これまで



小学生が基盤となるが、それ以降の競技継続環境が未整備

これから



小学生を基盤としつつ、中高生以降の競技環境を整備する。

競技人口の拡大

小学生から日本代表までのタレント発掘育成

競技を始める契機の多くが、トップアスリートへの憧れ。そして、親やきょうだいなど身近な存在が競技にかかわっていることがきっかけで始めるケースが多い。

本協会では、2011年に日本代表チームが結成されて以来、着実に認知度を上げている。今後、日本代表のようなトップアスリートとして世界で活躍することを夢見てドッジボールを始めようとする選手が増加する可能性を秘めている。

一方で、ドッジボールの認知度、普及度、競技人口などを考慮すると、憧れの対象はある程度手の届くところにいることが望ましい。今からでもなれるかもしれない、自分にもできるかもしれない、という期待感を抱き、チャレンジする選手を増やしていく。

世界で羽ばたく機会を提供し、そのためのプロセスを確立することが重要である。



競技人口の拡大

小学生から日本代表までの
タレント発掘育成構想を推進

目的 将来の日本代表選手の育成
各年代の競技レベルの底上げ
中高生クラスの競技人口拡大

戦略 普及の入口は低く広く
(D-1, D-2の選択)
(D-1ジュニアの拡充)
到達目標は高く
(年代別セレクションの実施)



競技人口の拡大



小学生から日本代表までの タレント発掘育成構想案(1)

・D-1ジュニア(主に10才以下)の大会推進

一定条件を満たす大会主催者に, 大会をサポート

D-2との違いを鮮明化 D-1定着を図る

・U13日本代表セレクション ※2018年度

地域選抜セレクション→タレント発掘(日本代表候補選抜)事業

→2018アジアカップ代表

競技人口拡大



小学生から日本代表までの タレント発掘育成構想案(2)

- ・U18(高校), U15(中学生), 日本代表事業
地域選抜セレクション→日本代表候補セレクション→2018アジアカップ代表
- ・国際組織, 地域(アジア)組織の連携強化
ADC, ADF間の連携, WDAへの加盟に向けた調査
ADF主催大会への選手団派遣(9月・マレーシア)

シニアカテゴリーの更なる充実のために



課題

ジュニア層(主に小学生)の**模範となる行動規範をもつ選手**の育成
(大会での参加態度, 審判に対するリスペクトの欠如などが課題)

解決策

- ・日本代表を中心に, シニア層が主体的となり「**行動規範向上キャンペーン**(仮称)」を展開。
- ・加盟団体に対し, シニア層の育成を目的に, **役員, スタッフへの積極的登用**を働き掛け。
- ・**シニア層向け競技会の積極開催**を促進。

Resolution 2017

～決断～

今後の主な国際大会

2017.9 ADFワールドカップアジア予選(マレーシア)

2018秋 第4回ADCアジアカップ(韓国)

ADFワールドカップ(米国)

2020 第5回ADCアジアカップ(日本開催予定)

競技人口増大を支える人材育成

選手育成

年代別選手強化プログラム
年代別普及プログラム

公認指導者育成

日体協公認指導者制度運用開始

人材育成

上級審判員取得率向上に向けた取組

審判員育成

委員会業務の組織、運営を抜本的に見直し、組織全体の機動性を強化
若手有望人材の発掘、世代交代を推進

運営管理者育成

競技人口増大を支える人材の育成

公認指導者育成

ドッジボールのみならずスポーツ全般にわたる正しい知識、技術を指導し、チームづくりに優れた指導者の育成は、ドッジボール競技普及の推進役として期待されている。

2017年度の新規資格取得者の目標を前年比5%に設定し、資格取得の促進を図る。

審判員育成

シニア、国際大会への対応も含めた高い技量を兼ね備えた審判員の育成の推進が求められている。

国際大会における各国審判員との交流、若手審判員への指導など、上級審判員に対する期待は大きくなっている。

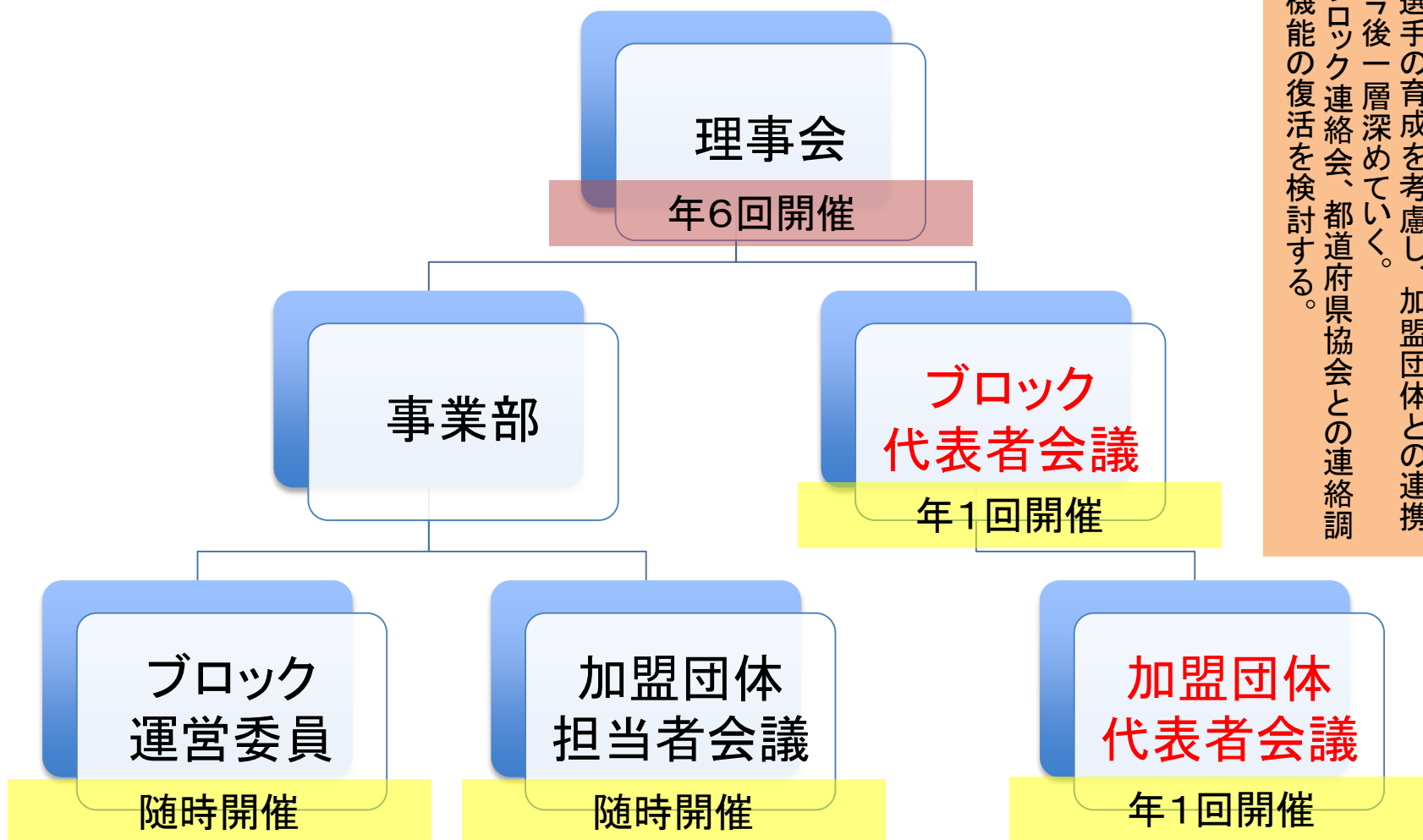
国内で3300名の公認審判員のうち、新規審判員の数を前年比5%に設定する。

B級審判員の合格率を50%に上げる努力を図る。

運営管理者育成

選手及びチームを支える大会主催者(協会等)の運営管理能力が、今後の競技人口増加の是非を握っている。各種カテゴリー大会の開催や、参加を促進する勧誘策、さらに、運営を支える人材の育成や管理等、多種多様な能力が求められている。加盟団体の運営管理者の育成を推進するため、全国大会等の主催大会において、新たな人材の発掘や登用に努める。

協会運営組織の将来像



全国大会の地方開催、指導者育成、優秀な選手の育成を考慮し、加盟団体との連携を今後一層深めていく。
ブロック連絡会、都道府県協会との連絡調整機能の復活を検討する。

ブロック代表者会議，加盟団体代表者会議 (いずれも仮称)

目的 理事会決定事項の**確実な伝達と認識共有**
ブロック，加盟団体間の**現状と課題を交流**

実施会議 ブロック代表者会議(1日開催)
加盟団体代表者会議(1日開催)

内容 事業計画説明(各担当理事)
活動事例紹介(加盟団体)
・全国大会開催(福岡)，日本代表事業
選手育成，指導者育成，審判員育成

協会組織改革計画

2018年まで

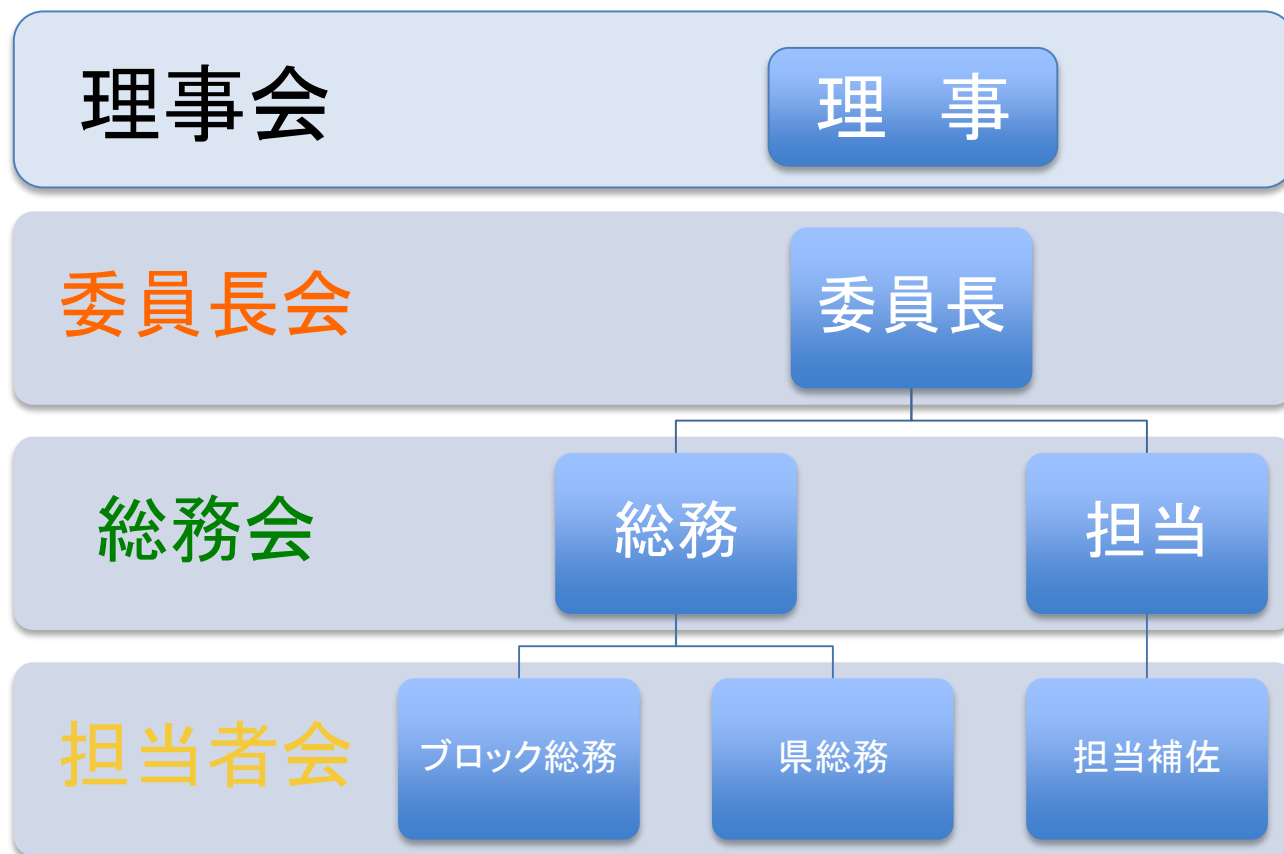
- 競技委員会
- 普及委員会
- 指導委員会
- 事業委員会
- 総務委員会

2019年から

- **統轄本部**
広報・営業チーム 総務チーム
- **競技委員会**
審判員管理育成チーム
競技規則管理チーム
- **指導普及委員会**
指導者管理育成チーム
普及事業チーム
- **強化育成委員会**
日本代表対策チーム
選手育成チーム
- **国内事業委員会**

全国大会運営チーム
- **国際事業委員会**
WDA, ADF, ADC担当チーム

2019年以降 委員会組織の充実



今後2年間で、各委員会を横断的に接続、連携を図るための「〇〇会」組織を構築し、協会運営機能を高めていく。

2017年度事業予定

	第1四半期 (4-6月)	第2四半期 (7-9月)	第3四半期(10- 12月)	第4四半期 (1-3月)
国内事業		8月13日夏小 (埼玉・さいたま)	10月1日全日本 (愛知・豊田) 12月9, 10日 女子総合(静岡)	3月25日春小 (三重・津)
国際事業		選手発掘合宿	9月WDAアジア予 選(マレーシア)	日本代表合宿
指導	指導者講習会(東海・中国・九州)			加盟団体実態調査
競技	ブロック別研修会(全国9会場)		級別認定会(全国9会場)	加盟団体実態調査
普及	5月ビーチスポーツ フェスティバル (東京・お台場)	ドッグスクール (三重・津)	11月ビーチドッグ フェスティバル (沖縄)	加盟団体実態調査
広報	協会広報誌発行			
会議	6月定時評議員会		ブロック代表会議	加盟団体会議 2月臨時評議員会